

平成22年度全国学力・学習状況調査〔抽出調査〕実施の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 実施対象

文部科学省が調査対象として抽出した学校における県内国・公・私立学校の以下の学年の全児童生徒を対象とする。

小学校調査...小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校調査...中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A、算数・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B、算数・数学B】
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした問題

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日

平成22年4月20日(火)

5 本県の公立小・中学校、特別支援学校の参加状況

抽出調査校：全248校(抽出率約44%)(参加児童生徒数：12,672人)

小学校、特別支援学校小学部 134校(抽出率約37%)(参加児童数：4,773人)

中学校、特別支援学校中学部 114校(抽出率約58%)(参加生徒数：7,899人)

平成22年度 全国学力・学習状況調査〔抽出調査〕結果の概要

本県の結果の状況（公立小・中学校、特別支援学校）

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国 語	82.0～83.5	83.2～83.5	75.6～77.5	77.7～78.0
	算 数	72.9～74.7	74.0～74.4	46.6～48.4	49.1～49.5
中学校	国 語	75.3～76.6	75.0～75.2	65.9～67.6	65.1～65.5
	数 学	65.3～67.4	64.4～64.8	44.3～46.7	43.1～43.5

数値は、平均正答率の95%信頼区間（%）

信頼区間とは、95%の確率で、全員を対象とした調査（悉皆調査）の場合の平均正答率が含まれる範囲のこと

< 参考 > 平成21年度の調査〔悉皆調査〕結果（公立小・中学校、特別支援学校）

校 種	教 科	A問題（知識）			B問題（活用）		
		本 県	全 国	差	本 県	全 国	差
小学校	国 語	68.8	69.9	-1.1	48.7	50.5	-1.8
	算 数	78.2	78.7	-0.5	53.3	54.8	-1.5
中学校	国 語	78.1	77.0	+1.1	76.5	74.5	+2.0
	数 学	63.6	62.7	+0.9	58.7	56.9	+1.8

平成22年度全国学力・学習状況調査〔抽出調査〕結果の考察

【小学校・国語】

改 善 状 況	文章の内容を正確に読み取るとは改善傾向にある。 書く目的に応じて、文章表現のよさなどについて確かめたり表現を工夫したりすることは改善傾向にある。
---------	---

	課 題	改善のポイント
A 問題 (知識)	登場人物それぞれの関係をとらえながら文章を読むこと 二つの文を意味を変えずに一つの文に直すこと	登場人物それぞれの関係を考えながら、人物像をとらえる学習を増やす。 二文を一文にまとめたり一文を二文に分けて書いたりする学習を適切に仕組む。
B 問題 (活用)	自分の考えを一定の条件に沿ってまとめること 目的に応じて、聞き手を引き付けるように話すこと	示された条件に沿って物語を読み、感想をまとめる学習を仕組む。 具体的場面に応じて、話の構成や言葉遣いを工夫する学習を増やす。

【小学校・算数】

改 善 状 況	加法と乗法の混合した整数の計算について、改善の状況が見られた。 円グラフから必要な情報を読み取ることについて、改善の状況が見られた。
---------	---

	課 題	改善のポイント
A 問題 (知識)	円周と直径(半径)の関係を理解すること 割合をもとめること	等積変形により既習の図形に置き換えて考えることができるよう指導する。 条件に即して基準量と比較量を捉え、計算できるよう指導する。
B 問題 (活用)	示された図(円や三角形など)や考えを基に判断し、式や言葉を用いて記述すること 割合が一定の場面、比較量が大きくなる時の基準量を判断し、記述すること	根拠や対象を明らかにして説明できるよう指導する。 基準量、比較量、割合の関係についての理解ができるよう、テープ図や線分図を用いて指導する。

【中学校・国語】

改 善 状 況	現代語訳を参考にして古文の内容をとらえることは改善傾向にある。 文章と図など複数の資料を関連付けて読むことは改善の状況が見られた。
------------	--

	課 題	改善のポイント
A 問題 (知識)	一つの文を意味を変えずに 二つの文に直すこと 伝える相手に応じて文章表現を工夫すること	主語と述語の関係など、いくつかの視点を設け推敲する学習を仕組む。 伝える相手にふさわしい表現を用いて書く学習活動を頻繁に仕組む。
B 問題 (活用)	同じテーマで書かれた二つの新聞記事を読み比べ、述べ方の違いをとらえること 比喩表現を使って表現された内容を理解すること	新聞や広告等を書き表された情報を整理したり、分析したりする学習を仕組む。 表現の仕方について注意して読み、自分の読み取りを述べ合う学習を仕組む。

【中学校・数学】

改 善 状 況	「証明の意義を理解すること」について、改善の状況が見られた。 表やグラフで与えられた情報をよみ、問題解決の方法を数学的に説明することは、改善の状況が見られた。
------------	--

	課 題	改善のポイント
A 問題 (知識)	具体的な事象を一次関数の式で表すこと 総当たり戦(リーグ戦)の試合の総数を求めること	問題場面を図や表で表し、変化の様子を調べてから式に表す活動を取り入れる。 樹形図や二次元表を用いることで、正確に数えられたという実感を伴う学習を取り入れる。
B 問題 (活用)	実生活の中での事象を数学的にとらえ、数学的な表現を用いて説明できること 文字式を使って、事柄が一般的に成り立つ理由を説明すること	実生活の中での事象を数学的にとらえようとする態度や意欲を養う場面を設定する。 それぞれの文字式の意味を理解するとともに、その式の表し方の根拠を考える学習を取り入れる。

【質問紙調査】

生活習慣における改善状況や課題は、小・中学校ともに同じ傾向である。

改善状況	課題
<p>授業以外の学習時間は、小・中学校ともに時間が増え、1～2時間以上の学習をしている児童・生徒の割合は、全国平均を2～3ポイント上回っている。</p> <p>テレビやビデオ、DVDを2時間以上見ている割合が減少し、中学校においては全国平均より視聴時間が少ない。</p>	<p>テレビゲーム（コンピュータゲーム）を2時間以上使用する割合は、小・中学校ともに全国平均より低い。中学校はやや増加傾向にある。</p> <p>学校以外で30分以上読書をする割合が小学校は減少傾向にあり、全国平均との差が昨年度より広がった。</p>

小学6年生・中学3年生の生活習慣等の調査[抽出調査]結果
 (全国学力・学習状況調査 質問紙調査からの抜粋)

	調査項目	小学校				中学校				昨年度・全国との比較			
		平成21年度	差	平成22年度	差	平成21年度	差	平成22年度	差				
1	毎日朝食を摂取	全国	96.0		全国	96.4		全国	92.4		全国	93.3	中はやや増加、小はやや減少、どちらも全国より高く、望ましい状況である。
		本県	97.2	+1.2	本県	96.5	+0.1	本県	95.2	+2.8	本県	96.0	
2	10時までに就寝(小学校)	全国	43.3		全国	43.8		全国	71.8		全国	72.2	小中ともに増加。特に中は全国より7.5%上回っており、望ましい状況である。
	12時までに就寝(中学校)	本県	43.2	-0.1	本県	44.4	+0.6	本県	78.0	+6.2	本県	79.7	
3	朝7時前に起床	全国	76.5		全国	77.1		全国	65.7		全国	67.1	小中ともさらに向上し、全国を大きく上回っており、望ましい状況である。
		本県	87.1	+10.6	本県	88.0	+10.9	本県	72.9	+7.2	本県	76.7	
4	授業以外に1~2時間以上の学習をしている(月~金)	全国	57.2		全国	58.2		全国	65.3		全国	66.2	小中ともさらに向上し、全国を上回っており、良好な状況である。
		本県	59.9	+2.7	本県	61.8	+3.6	本県	67.0	+1.7	本県	68.2	
5	学校以外での30分以上の読書時間(月~金)	全国	35.2		全国	35.9		全国	26.6		全国	27.3	小は減少、中はやや増加。小は全国との差が広がり、課題である。
		本県	34.8	-0.4	本県	34.1	-1.8	本県	28.1	+1.5	本県	28.3	
6	学習塾(家庭教師を含む)で勉強している	全国	47.4		全国	47.2		全国	63.0		全国	62.9	小中ともに全国より割合が低い状況が続いている。
		本県	37.2	-10.2	本県	38.4	-8.8	本県	54.2	-8.8	本県	54.8	
7	テレビやビデオ、DVDを2時間以上見ている	全国	69.5		全国	67.6		全国	64.9		全国	63.6	小中ともに減少し、中は全国より少ない割合であり、良好な状況である。
		本県	73.1	+3.6	本県	69.7	+2.1	本県	65.8	+0.9	本県	63.4	
8	テレビゲーム(コンピュータゲーム)を2時間以上使用する	全国	23.4		全国	23.0		全国	21.0		全国	21.6	小は減少し、中は若干増加したが、全国より少ない時間であり、良好な状況である。
		本県	21.3	-2.1	本県	19.8	-3.2	本県	16.2	-4.8	本県	16.5	
9	インターネットを2時間以上使用する	全国	7.3		全国	7.5		全国	17.3		全国	18.1	ほぼ横ばい。全国より使用時間が少ない状況は続いている。
		本県	5.2	-2.1	本県	5.1	-2.4	本県	11.9	-5.4	本県	12.0	

平成 2 2 年 度 全 国 学 力 ・ 学 習 状 況 調 査 の 結 果

【 速 報 版 】

昨 年 度 の 課 題 及 び 改 善 状 況

今 年 度 の 課 題 及 び 指 導 改 善

～ 重 点 課 題 を 改 善 す る た め の 指 導 方 法 ・ 内 容 ～

長 崎 県 教 育 庁 義 務 教 育 課

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて(速報版): 小学校 国語科「知識」

主として「知識」に関する調査から

長崎県教育委員会

【昨年度の課題及び改善状況】

昨年度の課題

- ・ローマ字を読んだり書いたりすること
- ・文学的な文章の表現の工夫をとらえること
- ・接続語を使って一文を二文に分けて書くこと
- ・文字の大きさや配列などに注意して書くこと

改善状況

- ・表現の工夫について述べた文章からその効果について考えることに、改善の傾向が見られた。
(主として「活用」に関する問題の結果から)

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査

平均正答率の95%信頼区間

全国 83.2～83.5%

長崎県 82.0～83.5%

課題

「知識」に関する観点

ア 文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むこと

イ 二つの文を意味を変えずに一つの文に直すこと

ウ 自分の考えが明確になるように、文章全体の構成の効果を考えて書くこと

重点課題を改善するための指導内容・方法

ア 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むことができる。

指導の工夫

- ・物語などを読むときには、登場人物の相互関係から人物像やその役割をとらえ、内面にある深い心情も合わせて読み取っていくよう指導する。
- ・目的に応じて様々な文学的な文章を授業の中で計画的に取り上げ、優れた叙述などについて自分の考えをまとめる学習を設定する。

イ 文の構造として、単文、重文、複文などがあることを理解し、目的に応じた文章構成で書くことができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・文の意味のつながりを考え、接続語を使って一文を二文に分けたり、逆に二文を一文にまとめたりして書くことができる。

指導の工夫

- ・文の構造として単文、重文、複文があることを理解するため、二つ以上の内容を一つの文にまとめたり、逆に二つ以上の内容が含まれた一文を分けて書いたりするなど、言語を操作する学習を設定する。
- ・目的や意図を明確にした上で、求められる条件に応じて、接続語や文末表現を工夫しながら簡潔に書いたり、詳しく書いたりすることができるよう指導する。

ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・自分の考えが明確になるように、文章全体の構成の効果を考えて書くことができる。

指導の工夫

- ・意見文の文章全体の構成を工夫できるように、文章全体の構成の型を押さえた学習を設定する。
- ・取材の段階から意見文の文章全体の構成を意識し、適切な取材方法等を検討するように指導する。
- ・文章構成そのものについても推敲を行い、目的や意図を踏まえ、読み手への効果を考え構成を工夫するように指導する。

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて(速報版): 小学校 国語科「活用」

主として「活用」に関する調査から

長崎県教育委員会

【昨年度の課題及び改善状況】

昨年度の課題

- ・必要な事柄を整理し、事実や意見などを関係付けて書くこと
- ・自分の立場、意図を明確にして話し合うこと
- ・目的に応じて文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを明確にしながら読むこと

改善状況

- ・「読むこと」は、平成19年度から毎年課題となっているが、今年度は、説明的な文章の内容を的確に押さえながら読むことについて、改善の傾向が見られた。
(主として「知識」に関する問題の結果から)

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「活用」に関する調査

平均正答率の95%信頼区間

全国 77.7~78.0%

長崎県 75.6~77.5%

「質問紙調査」の主な項目

	県 (全国)
・国語の勉強が好き	58.9% (62.1)
・国語の勉強は大切	91.6% (91.6)
・国語の授業はよく分かる	80.3% (82.3)
・資料を読み、自分の考えを話す・書く機会	58.4% (60.1)

課題

「活用」に関する観点

ア 物語全体の構成の効果をとらえること

イ 物語を読んで思ったことや考えたことを、理由を明確にしてまとめて書くこと

ウ 目的や意図に応じて、聞き手を引き付けるように話すこと

「質問紙調査」から

エ 達成感を与える授業づくりをすること

オ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすること

重点課題を改善するための指導内容・方法

ア・イ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・物語全体の構成の効果をとらえることができる。
- ・物語を読んで思ったことや考えたことを、理由を明確にしてまとめて書くことができる。

指導の工夫

- ・物語全体の構成や展開に着目して読むことと、優れた叙述に着目して読むこととを、螺旋的・反復的に繰り返していくなど、読みの重層化を図ることができるよう指導する。
- ・中学年で身に付けた「登場人物の行動や性格に基づき、場面の描写をとらえること」を活用して、物語の構成上の工夫をとらえる学習を仕組む。
- ・読書発表会などの言語活動により、物語を読んで思ったことや考えたことを今までの読書経験や体験など関係付けながらまとめ、発表し合うことができる学習を設定し指導する。
- ・物語を読んで思ったことや考えたことを目的や一定の条件に沿ってまとめる学習を仕組む。

ウ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・目的や意図に応じて、聞き手を引き付けるように話すことができる。

指導の工夫

- ・聞き手に興味・関心をもってもらえるような話の構成、言葉遣い、注目を促したりする話し方、聞き手に伝わっているかどうかの確認の工夫などについて、具体的に指導する。
- ・多様な場や相手に対して話すことができる機会を設定し、中学年までに学習してきた言葉遣いの様々な側面(声量や速度、抑揚や間の取り方、敬体と常体の使い分け、表情、仕草など)を基に、その場に応じた最も適切な表現ができるよう指導する。

エ・オ 目標を絞り、学ぶことを明確にして達成感・成就感を味わわせる授業、言語活動を通して国語の能力を身に付けさせる授業を実施する。

- ・「何がわかったり、できるようになったりすればよいのか」を児童に自覚させ、目標達成に向け児童が見通しをもって主体的に学習を展開できるような授業を実施する。
- ・基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、日常生活に必要とされる言語活動を設定し、その充実を図る。

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：小学校 算数科「知識」

主として「知識」に関する調査から

長崎県教育委員会

【昨年度の課題及び改善状況】

昨年度の課題

- ・数直線から数を読み取ること
- ・四角形など多角形の内角の和の求め方を理解すること
- ・三角形の面積を求めること
- ・百分率を求めること
- ・資料を分類整理し表を用いて表わすこと

改善状況

- ・面積を求めることについては、全国平均には及ばなかったものの差が縮まった。

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査

平均正答率の95%信頼区間

全 国 74.0～74.4%

長崎県 72.9～74.7%

課題

「知識」に関する観点

- ア 円周と直径の関係を理解すること
- イ 割合を求めること
- ウ 商を分数で表すこと
- エ 商が1より小さくなる等分除の場面で、除法が用いられることを理解すること

重点課題を改善するための指導内容・方法

ア 円周と直径の関係について理解する力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・円の面積の求め方を考え、それを用いることができる。
- ・円の面積を求める際の等積変形の仕方について理解することができる。

指導の工夫

- ・作業的・体験的な活動を取り入れて、等積変形についての理解を深めるようにする。

イ 割合を求めることができる力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・百分率の意味について理解し、それを用いることができる。

指導の工夫

- ・数量をテープ図や線分図に表す活動を取り入れ、数量の関係を捉えられるようにする。
- ・割合の表現には、整数、分数、百分率、歩合があることを理解させる。
- ・「～の割合は0.8です」「～の割合は0.8倍です」のように、表現が異なっても同じ割合を表していることを理解させる。

ウ 被除数に当たる数と除数に当たる数を判断し、商を分数で表す力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解できる。

指導の工夫

- ・除法の結果は必ずしも整数になるとは限らないことを、実際に計算して確認する活動を取り入れる。
- ・分数を用いることで商を1つの数として表せるよさに気付かせるようにする。

エ 商が1より小さくなる等分除の場面で、除法が用いられることを理解する力の向上を図る。

6年生につけたい具体的な力

- ・被除数に当たる数と除数に当たる数を判断して立式し、計算することができる。

指導の工夫

- ・整数÷整数の場面でも、被除数と除数をとらえることができるよう、示された量数を図に表す活動を取り入れて数量の関係を考え、用いる演算を判断できるようにする。

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて（速報版）：小学校 算数科「活用」

主として「活用」に関する調査から

長崎県教育委員会

【昨年度の課題及び改善状況】

昨年度の課題

- ・見方を変えて新しい解決方法を考えること
- ・条件を考慮して筋道を立てて考えること
- ・必要な情報を整理・選択し、判断の正しさを説明できること
- ・割合の大小を判断し、その理由を数学的に表現すること

改善状況

- ・示された円グラフから必要な情報を読み取るについては、改善が見られた。

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査

平均正答率の9.5%信頼区間

全国 49.1～49.5%

長崎県 46.6～48.4%

「質問紙調査」の主な項目

	県 (全国)
・算数の勉強が好き	63.7%(63.8)
・算数の勉強は大切	92.9%(92.1)
・算数の授業はよく分かる	78.7%(78.0)
・生活の中で活用している	66.7%(64.6)

課題

「活用」に関する観点

- ア 示された図（円や三角形など）や考えを基に判断し、式や言葉を用いて記述すること
- イ 割合が一定の場面で、比較量が大きくなるときの基準量を判断し、記述すること
- ウ 平面上にかかれた立体図形や平面図形、与えられた条件を基に長方形の大きさを考え、記述すること
- エ 示された説明を解釈し、用いられている考えを別の図形に適用して説明すること
- 「質問紙調査」から
- オ 成就感を与える授業づくりをすること

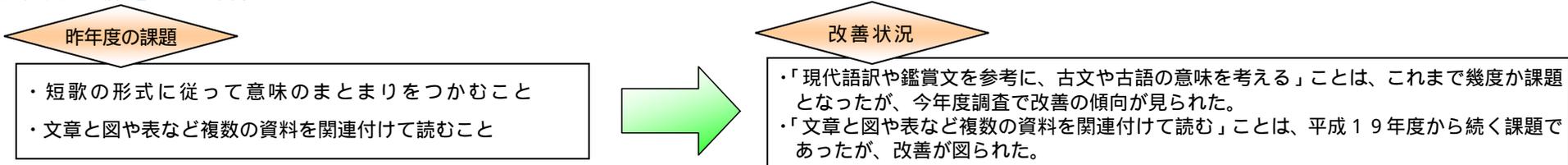
重点課題を改善するための指導内容・方法

- ア 示された図（円や三角形など）や考えを基に判断し、式や言葉を用いて記述できる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
・図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察することができる。
指導の工夫
・式の一部を省略することなく、具体的な場面に对应させて、思考過程を式で表現できるようにする。
・自分の考えを的確に伝えるため、式だけでなく、なぜその式になるのかという根拠や、何を求めるための式なのかという説明の対象を明らかにして説明できるようにする。
- イ 割合が一定の場面で、比較量が大きくなるときの基準量を判断し、記述できる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
・百分率の意味について理解し、それを活用することができる。
指導の工夫
・根拠となる事柄を明らかにして、論理的に説明できるようにする。
・不十分な説明を基にしてそれを改善する活動などを取り入れる。
- ウ 平面上にかかれた立体図形や平面図形、与えられた条件を基に長方形の大きさを考え、記述できる力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
・図形の合同について理解することができる。
・図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察することができる。
指導の工夫
・基本的な平面図形を算数の用語を使つて的確に表現できるよう、図形を言葉で表現し伝え合う活動を取り入れる。
・問題に示された数値や条件を基に、言葉や式、図を用いて筋道立てて考え、問題解決ができるようにする。
・合同な図形が様々な図でかかれた場合に、辺や角を対応させて考えることができるようにする。
- エ 示された説明を解釈し、用いられている考えを別の図形に適用して説明する力の向上を図る。
6年生につけたい具体的な力
・基本的な平面図形の面積を求めることができる。
・図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察することができる。
指導の工夫
・他者が記述した説明を解釈できるよう、その考え方を用いて他の問題を解く活動を取り入れる。
・根拠や考えを明らかにして言葉で説明を記述することに慣れさせる。
- オ 成就感を与える授業づくりをするために、授業改善を図る。
・基礎的・基本的な知識・技能の定着は図られつつあるが、それらを活用して思考・判断・表現することについては今後も改善を図る必要がある。
・実生活における事象との関連を図った授業づくりを通して、物事を観察して的確にとらえたり、情報を分類整理したり、筋道を立てて考えたり、事象を数学的に解釈したりする経験をさせ、生活の中での活用につなげる。

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて(速報版): 中学校 国語科

長崎県教育委員会

【昨年度の課題及び改善状況】



【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査
平均正答率の95%信頼区間
全国 75.0～75.2%
長崎県 75.3～76.6%

主として「活用」に関する調査
平均正答率の95%信頼区間
全国 65.1～65.5%
長崎県 65.9～67.6%

「質問紙調査」の主な項目

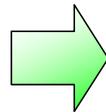
	県 (全国)
・国語の勉強が好き	57.9%(57.2)
・国語の勉強は大切	90.7%(89.0)
・国語の授業はよく分かる	69.9%(69.9)
・国語の学習は将来役に立つ	84.3%(80.9)
・自分の考えの理由が分かるように書く	58.6%(57.7)
・読書が好き	73.8%(68.8)

重点課題

「知識」に関する観点
ア 書いた文章を推敲すること
イ 相手に応じて表現を工夫して書くこと
ウ 漢字の楷書と行書の違いを理解すること

「活用」に関する観点
エ 記事文における表現の仕方をとらえること
オ 表現の仕方に注意して読み、内容について理解すること

「質問紙調査」から
カ 達成感を与える授業をつくること
キ 自分の考えの根拠を明確にして書くこと



重点課題を改善するための指導内容・方法

相手意識や目的意識、方法意識をもち、表現の工夫を図りながら書いたり、書いたものを推敲したりすることができる力の向上を図る。また、行書の基礎的事項について理解を深める。(知識)

3年生につけたい具体的な力
ア 書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章に直すことができる。
イ 相手に応じて表現を工夫して書くことができる。
ウ 漢字の楷書と行書の違いを理解することができる。

指導の工夫
ア 主述や修飾・被修飾など語句同士の関係、文や段落相互の関係などの整合性を点検し、修正すべき語句や表現について理由を明確にして推敲するよう指導する。
ア 選材や構成、記述など、文章を書く各過程で随時立ち止まり見直ししながら書くよう指導する。
イ 案内文といった公的な文章の特徴やふさわしい表現等について理解を深めるための学習活動を仕組む。
イ 相手や目的に応じて適切に表現する力を身に付けるため、目上の人、同級生、年下の人など、様々な相手を想定して、それにふさわしい表現で書く学習活動を頻繁に仕組む。
ウ 行書の基礎的事項について理解させるため、同じ文字の楷書と行書を比較し、筆順や運筆などの違いについて考え、それらを生かして書く学習活動を仕組む。

表現の仕方に注意して読み、内容について理解する力の向上を図る(活用)

3年生につけたい具体的な力
エ 記事文における表現の仕方をとらえることができる。
オ 表現の仕方に注意して読み、内容について理解することができるようにする。

指導の工夫
エ 同じテーマで書かれた違う筆者の文章を読み比べ、主張の違いや表現の仕方の違いをとらえる学習活動を仕組む。
エ ものの見方や考え方を広げ、読書生活を豊かにすることを目的として新聞を有効活用する。
オ 内容や表現の仕方など、文章の表現に着目した話し合い活動を設定し、互いの考えを深めたり、自分の表現に生かしたりすることができるように指導する。

目標を絞り、学ぶことを明確にして達成感・成就感を味わわせる授業、言語活動を通して国語の能力を身に付けさせる授業を実施する。(質問紙調査から)

カ 目標を絞り、「この力がついた」「このことがわかった」という成就感をもたせて1時間の授業を終わるようにする。
キ 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、社会生活に必要な言語活動を設定し、その充実を図る。

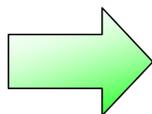
平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果に基づいて(速報版): 中学校 数学科

長崎県教育委員会

【昨年度の課題及び改善状況】

昨年度の課題

- ・ 証明の意義を理解すること
- ・ 問題解決の方法を数学的に説明すること



改善状況

- ・ 「証明の意義を理解すること」について、改善が図られた。
- ・ 表やグラフで与えられた情報をよみ、問題解決の方法を数学的に説明することは、改善が図られた。

【今年度の課題及び指導改善】

結果

主として「知識」に関する調査

平均正答率の95%信頼区間

全国 64.4~64.8%

長崎県 65.3~67.4%

主として「活用」に関する調査

平均正答率の95%信頼区間

全国 43.1~43.5%

長崎県 44.3~46.7%

「質問紙調査」の主な項目

	県	(全国)
・ 数学の勉強が好き	55.6%	(53.3)
・ 数学の勉強は大切	82.7%	(79.3)
・ 簡単に解く方法を考える	67.5%	(64.9)
・ 最後まで解答を書く	92.1%	(89.4)

重点課題

「知識」に関する観点

- ア 事象を一次関数の式で表すこと
- イ 円柱の体積を求めること
- ウ 式やグラフを用いて関数の特徴を考察すること
- エ 起こり得る場合を数え上げること

「活用」に関する観点

- オ 実生活の中での事象を数学的にとらえ、数学的な表現を用いて説明できること
- カ 文字式を使って、事柄が一般的に成り立つ理由を説明すること

「質問紙調査」から

- キ 成就感を与える授業づくりをすること
- ク 処理を速く正確にできること



重点課題を改善するための指導内容・方法

数量や図形に関する基礎的・基礎的な知識及び技能の習得を図る。(知識)

3年生につけたい具体的な力

- ア 具体的な事象における一次関数の関係を式で表すことができる。
- イ 円柱の体積の求め方を理解し体積を求めたり、円周率を用いて円柱の体積の求め方を式で表したりすることができる。
- ウ 比例のグラフ上にある点のx座標とy座標の値の組が、その比例の式を満たしていることを理解できる。
- エ 順序よく整理して起こり得る場合の数を求めることができる。

指導の工夫

- ア 問題場面を図や表で表し、変化の様子を調べてから式に表す活動を取り入れる。
- ア 小学校で学習する内容との系統性や関連性を確認し、指導計画を検討する。
- イ 小学校で学習した直方体の体積を求める公式から類推して、角柱や円柱など柱体の体積を求める公式を導くことができるよう指導する。
- ウ 比例のグラフ上の点のx座標とy座標の値の組がその比例の式を満たすことを確認するとともに、グラフ上にない点についてもx座標とy座標の値の組がその比例の式を満たさないことを確認する場面を設定する。
- エ 樹形図や二次元表を用いることにより、起こり得る場合を数え上げるよさを実感する活動を取り入れる。

数学的な見方や考え方を用いて、解決する方法や一般的に成り立つ理由を説明する力を向上させる。(活用)

3年生につけたい具体的な力

- オ 与えられた情報をよみ、事象を数学的に解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる。
- カ 連続する奇数について、筋道立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することができる。

指導の工夫

- オ 日常的な事象を数学化する過程において、事象の観察を通して把握した事柄を記述したり、発表したりして、数学的に説明する活動を仕組む。
- カ それぞれの文字式の意味を理解するとともに、その式の表し方の根拠を考える学習を取り入れる。

用語の意味や数式の計算など、知識・技能を確実に習得させるとともに、処理を速く正確にできるようにする授業を実施する。(質問紙調査から)

- オ 「できた」ことを具体的に示し、称賛のメッセージを与え続ける。
- カ 計算練習や小テストの時間を短縮するなど、解答時間に負荷をかけた場面を設定する。